

# インタビュー

J. Jpn. Soc. Colour Mater., 97 [1], 2-4 (2024)

## —特別インタビュー 未来の研究者への期待—

### 未来へのバトンを若手研究者に託す想い (環太平洋大学 川島徳道教授\*へのインタビュー)

聞き手：住友金属鉱山(株) 宮内 恭子\*\*

\*環太平洋大学国際科学・教育研究所 神奈川県横浜市中区桜木町1-1-7HULICみなとみらい16F (〒231-0062)

\*\*住友金属鉱山(株)技術本部材料研究所 東京都青梅市末広町1-6-1 (〒198-8601)

#### 要 旨

今回のインタビューでは、平成24年～25年（2012年～2013年）に色材協会会長を務められ、現在は環太平洋大学国際科学・教育研究所 所長として後進の指導に当たられている川島 徳道教授に、ご経歴を伺うとともに現在興味があること、また若手の方々に期待することなど伺ってまいりました。

#### 色材協会との出会いは？

色材協会との最初の出会いは、1970年11月25日です。私は当時東京理科大学目黒研究室の卒研生で、その日色材協会討論会が日本写真会館で開催されるため、水道橋にあった色材協会事務所から事務局長等とともに学会発表用機材をタクシーで会場に運ぶ途中、三島由紀夫が楯の会の会員4人とともに市ヶ谷の自衛隊総監部に押し入ったというニュースが入りました。この出来事は色材協会デビューの際に強烈な印象を残しました。

— 私（インタビュアー、宮内）は今回初めて環太平洋大学に伺ったのですが、研究室から見える景色が素晴らしいですね。川島教授：横浜一の眺望と言えるでしょう。みなとみらいを一望できます。羽田空港も近く、飛行機の姿も時折見えます。観覧車や夜の遊園地のイルミネーションも美しいです。ここは、希望を抱くのに相応しい場所です。

— 川島先生のご経歴をお伺してまいりたいと思います。医用工学という分野に携わることになったきっかけもお教えてください。



【氏名】かわしま のりみち  
【現職】環太平洋大学国際科学・教育研究所 所長  
【趣味】海外旅行、映画鑑賞、社交ダンス  
【経歴】1977年3月東京理科大学大学院理学研究科化学専攻博士課程修了（理学博士）。1977～1981年東京理科大学理学部応用化学科。1981～1983年リーハイ大学表面工学研究所（Pa, USA）。1983～1995年東京磁気印刷(株)。1995～2012年桐蔭横浜大学。2012年～現在環太平洋大学国際科学・教育研究所。



【氏名】みやうち きょうこ  
【現職】住友金属鉱山(株)技術本部材料研究所  
【趣味】料理  
【経歴】1998年住友金属鉱山(株)入社。2016年東京理科大学大学院理工学研究科工業化学専攻博士課程修了（博士（工学））。

川島教授：東京理科大学応用化学科に進学し、コロイド・界面科学を専攻し博士課程に進学して、1981年まで東京理科大学で助手を務めた後、アメリカのペンシルバニア州にあるLehigh University表面工学研究所で印刷に関する研究を行い、1983年に帰国しました。帰国後は、東京磁気印刷(株)（現在の(株)トッパンインフォメディア）で磁気媒体の表面研磨に用いる超精密研磨フィルムの開発に携わりました。1995年、桐蔭横浜大学の教授から新しく医用工学コースの立ち上げの依頼があり、大変興味ある分野でしたので、大学に移ることにしました。大学に移った当時、医用工学はまだ新しい分野で、会社でのセラミックに関する研究実績を活かして、医用材料や医用センサーを教えることになりました。当時は教える人が少ない研究分野でした。医用工学コースを創設したところ、学生の人気が出て、その後医用工学部を設立し、その後医用工学部を設立するまでになりました。そのときから、癌の光治療の研究を進めていました。大学は1995年から2012年の定年まで勤務しました。

— 会社時代に携わっておられた研磨や磁気テープの分野から医用工学分野へ、研究対象が変わったきっかけを教えてください。川島教授：知り合いの教授から「医用工学をやってみない？」と言われ、私は即座に現在セラミックを扱っているので、人工骨の研究も取り組めるだろうと思いました。また、磁気はセン



川島先生お写真



みなとみらい

【図表について】電子ジャーナルサイト「J-STAGE」ではカラーでご覧いただけます。https://www.jstage.jst.go.jp/browse/shikizai-char/ja/